

環境報告書 2024



環境教育の事業『テンパーク・エコキャンプ』（国立岩手山青少年交流の家）

＜風力発電機模型づくり＞



National Institution For Youth Education

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

トップコミットメント

平成17年に施行された環境配慮促進法では、事業者の環境保全への配慮を目的として、毎年環境報告書を作成し、公表することが定められております。本報告書はこれに基づき、国立青少年教育振興機構の令和5年度（2023度）における環境配慮の取り組みをご報告するものです。

国立青少年教育振興機構は、我が国の青少年教育のナショナルセンターとして、青少年に対する体験活動の機会の提供や教育指導者の養成等を行い、もって我が国の青少年教育の振興及び青少年の健全育成を図ることを主たる目的としております。全国に28の宿泊滞在型教育施設を有し、集団宿泊による共同生活体験や周囲の豊かな自然を活用した自然体験活動など、多様な機会を提供し、青少年の健康な身体や感性豊かな心、そして、生涯に出会う課題にチャレンジする意欲と能力の育成に努めています。

令和5年度（2023年度）における環境配慮の取り組みについては、各教育施設において、多様な自然体験活動を通じ青少年の環境マインドの醸成を図る環境教育に関する事業を実施したほか、設備・備品の整備充実などによる省エネルギー化や、温室効果ガス排出量削減のための取り組みを通じ、施設運営における環境負荷の軽減に努めた結果、光熱水量の使用量を平成22年度の実績以下とする環境目標を達成することができました。

なお、環境教育につきましては、従来から様々な取り組みを実施してまいりましたが、近年特にESDやSDGsの視点を取り入れた取り組みが求められていることから、当機構の第4期中期計画（2021～2025年度）において「環境学習などのESDに対応した教育事業の実施」を重点項目として明記するとともに、令和3年3月には「国立青少年教育振興機構環境教育取組方針」を策定いたしました。今後もこれらの方針に沿って環境教育に積極的に取り組んでいく所存です。

今後も青少年教育のナショナルセンターとしての機能の充実に努めてまいりますので、当機構の事業運営にご理解・ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



2025年1月
国立青少年教育振興機構
理事長 古川 和

目次

1	編集方針	3
2	環境理念と活動方針	3
3	機構の概要	4
3.1	目的	4
3.2	機構の Mission・Vision・Value・Commitment	4
3.3	機構組織	5
3.4	機構施設	6
3.5	年間利用者数	6
4	環境配慮への体制	7
5	環境目標・実績	8
6	環境への配慮	9
6.1	環境教育に関する事業	9
6.2	設備・備品等の整備	16
6.3	外部委託業者との連携による環境配慮の促進	17
6.4	環境関連法規制への対応	18
7	環境負荷の状況	19
7.1	マテリアルバランス	19
7.2	個別環境負荷の状況	20
7.3	個別環境負荷の分析	21
8	環境報告書に対する所見	22
	(参考) 環境配慮促進法との対照表	23

1 編集方針

本報告書は、令和5年度（2023年度）に当機構が実施した環境教育事業の活動内容を中心に編集し、全国28の教育施設における特色ある自然体験活動を紹介しています。ご覧の皆さまには、自然体験活動を通じた環境に関する当機構の取り組みについて、ご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

なお、本報告書は、環境配慮促進法に準拠し、また環境報告ガイドラインを参考にして作成しており、報告の対象期間は令和5（2023）年4月1日から令和6（2024）年3月31日までです。

2 環境理念と活動方針

環境理念

国立青少年教育振興機構は、あらゆる生命体にとってかけがえのない地球環境を未来に引き継ぐため、青少年の環境マインド醸成に努めます。

活動方針

国立青少年教育振興機構は、環境理念に基づき以下の活動方針を推進します。

- (1) 環境関連法規制の遵守
 - ・ 関連法規制遵守状況の定期的把握
- (2) 持続的環境活動の推進
 - ・ 全役職員による組織的、継続的活動の展開
 - ・ 環境報告書による環境活動の情報開示の推進（1回/年）
- (3) 環境教育の充実・向上（本来業務の質的向上）
 - ・ 環境プログラムの開発及び環境教育指導者の養成
 - ・ 青少年を対象とした体験活動事業の実施
- (4) エネルギー消費削減、廃棄物の削減など環境効率の向上
 - ・ 日常の環境保全活動の展開、環境保全のための新技術の導入
- (5) 外部とのコミュニケーションの活性化による地域共生、環境ノウハウの提供
 - ・ 地産地消による地域産業の活性化と環境保全の推進
 - ・ 当機構に関連する外部機関、組織の環境保全向上の関係の強化

3 機構の概要

3.1 目的

近年、都市化、情報化、少子化等が進み、青少年を取り巻く環境は大きく急激に変化しています。また、グローバル化の進展は、世界と我が国との距離を縮め、多様な価値観を持つ人たちの共生が求められています。

当機構は、我が国の青少年教育のナショナルセンターとして、青少年を巡る様々な課題へ対応するため、青少年に対し教育的な観点から、より総合的・体系的な一貫性のある体験活動等の機会や場を提供するとともに、青少年教育指導者の養成及び資質向上、青少年教育に関する調査及び研究、関係機関・団体等との連携促進、青少年教育団体が行う活動に対する助成を行い、我が国の青少年教育の振興及び青少年の健全育成を図ることを目指しています。

3.2 機構の Mission・Vision・Value・Commitment

私たちの使命 — Mission

青少年教育の振興、健全な青少年の育成

私たちが目指すもの — Vision

青少年一人ひとりが幸福を追求できる持続可能な社会を実現する

私たちの価値観、行動指針 — Value

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. Curiosity | 私たちは、何事にも好奇心を持ち、 |
| 2. Change | 枠にとらわれずに変化し、 |
| 3. Challenge | 失敗を恐れずにチャレンジします。 |
| 4. Care | 私たちは、すべての人たちを思いやり、 |
| 5. Communication | 多様性を重んじ、対話と共感を大切にします。 |
| 6. Collaboration | 私たちは、多様な人々や組織と協働し、 |
| 7. Creativity | 青少年のさらなる体験の場を創造していきます。 |

私たちの公約 — Commitment

私たちはミッション・ビジョンを達成するために、28施設が一つの船に乗って、7Csを羅針盤に七つの海(7Seas)を渡っていきます。

3.3 機構組織

組 織（令和5年度）

令和5年4月1日現在

役 員	
理 事 長	理 事
監 事	

理事長（オリンピックセンター所長）	古川 和
理事	長谷川和弘
理事	横井 理夫
理事（非常勤）	松田 恵示
監事（非常勤）	柿沼 美紀
監事（非常勤）	植草 茂樹

国立オリンピック記念青少年総合センター

所 長 — 所 長 代 理

地方施設

国立青少年交流の家（13施設）
国立青少年交流の家（14施設）

所 長 — 次 長

交流の家：大雪、岩手山、磐梯、赤城、能登、乗鞍、中央、
淡路、三瓶、江田島、大洲、阿蘇、沖縄
自然の家：日高、花山、那須甲子、信州高遠、妙高、立山、
若狭湾、曾爾、吉備、山口徳地、室戸、夜須高原、
諫早、大隅

役 職 員 数
(令和5年4月1日現在)

役 員	3人
職 員	500人
合 計	503人

※非常勤を除く

機 構 本 部



「令和5年度機構概要」より

3.4 機構施設

当機構には青少年の体験活動をサポートする国立青少年教育施設が全国に28カ所あります。



3.5 年間利用者数

令和5年度（2023年度）年間利用者数

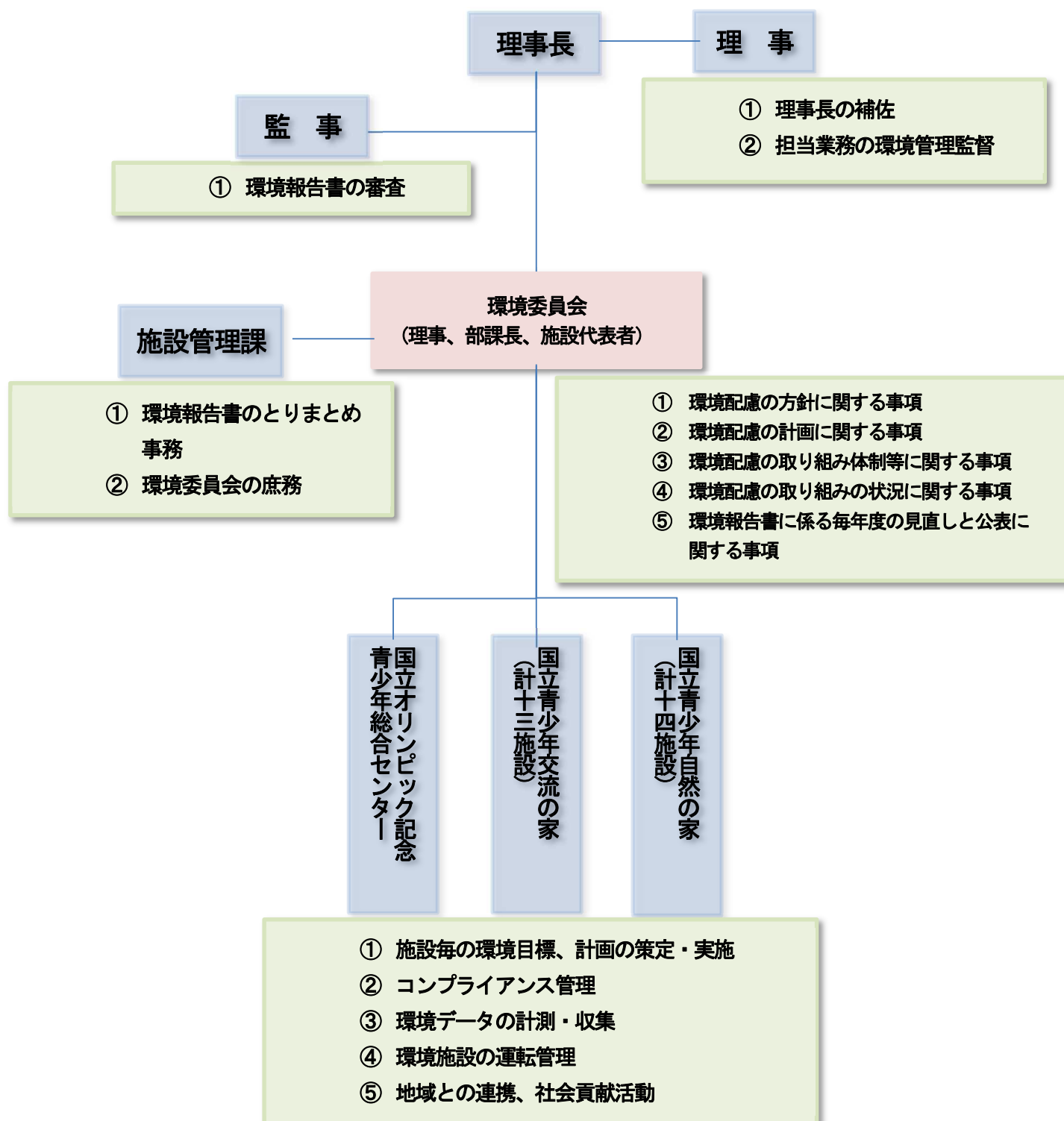
宿泊利用者数	日帰り利用者数	合計
1,518,272 人	1,109,618 人	2,627,890 人

※ 令和2年以降の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、利用者数は一旦激減しましたが、年々回復してきております。令和5年度は、令和6年1月1日に発生した能登半島地震による影響があったものの、利用の促進に向けた広報活動等の工夫・充実、特別に支援が必要な青少年に配慮した受入を行うなどの取組により、令和4年度（1,924,698 人）を上回る総利用者数となった。（対前年度比 703,192 人、36.5%増）

4 環境配慮への体制

環境配慮促進法第9条（環境報告書の公表等）に対応するため、平成19年1月15日に「独立行政法人国立青少年教育振興機構環境委員会規程」を制定し、環境委員会を設置しました。環境委員会は、環境配慮への方針や環境目標・計画を策定し、様々な環境活動の実施状況を把握するなど、全国28の教育施設を取りまとめながら環境に配慮した事業活動を推進しています。

機構の環境配慮の体制



5 環境目標・実績

環境影響項目	平成22年度 使用量	令和5年度（2023年度）				令和6年度（2024年度）	
		目標	主な取り組み	実績 (H22年度比較)	評価	目標	計画
電気	24,505,112kWh	各使用量を平成22年度より増加させないようにする。	・職員の巡回による、不要電灯の消灯や人感センサーによる消灯 ・クールビズ、ウォームビズの実施 ・電灯スイッチ周辺に節電シールを貼り、意識を高める ・休み時間中の事務所照明の消灯やOA機器などの待機電力カット ・適正照明の間引き（事務管理スペースなど） ・空調機の間欠運転 ・節電行動計画の策定	19,472,226kWh (20.5% 減)	達成	各使用量を平成22年度より増加させないようにする。	・各施設の使用量の定期的な公表 ・職員の巡回による、不要電灯の消灯や人感センサーによる消灯 ・クールビズ、ウォームビズの実施 ・電灯スイッチ周辺に節電シールを貼り、意識を高める ・休み時間中の事務所照明の消灯やOA機器などの待機電力カット ・適正照明の間引き（事務管理スペースなど） ・空調機の間欠運転 ・節電行動計画の策定
重油	2,565,681 L		・職員の巡回による、不要暖房の停止や温度調整、蒸気量の調整等 ・利用者が少ない場合の入浴時間の調整、短縮 ・設備機器周辺に省エネシールを貼り、意識を高める ・クールビズ、ウォームビズの実施 ・暖房機のコマメなON/OFF ・空調機の間欠運転	1,408,600 L (45.1% 減)	達成		・各施設の使用量の定期的な公表 ・職員の巡回による、不要暖房の停止や温度調整、蒸気量の調整等 ・利用者が少ない場合の入浴時間の調整、短縮 ・設備機器周辺に省エネシールを貼り、意識を高める ・クールビズ、ウォームビズの実施 ・暖房機のコマメなON/OFF ・空調機の間欠運転
灯油	431,803 L			325,453 L (24.6% 減)	達成		
軽油	114,055 L			62,054 L (45.6% 減)	達成		
ガソリン	88,775 L			54,608 L (38.5% 減)	達成		
都市ガス プロパンガス	1,934,770 m3			1,381,557 m3 (28.6% 減)	達成		
水道	721,561 m3	グリーン購入 100%	・職員の巡回による、不要水の削減 ・利用者が少ない場合の入浴時間の調整、短縮 ・水道蛇口周辺に節水シールを貼り、意識を高める ・節水コマの使用や自動水栓の導入 ・節水型トイレの導入 ・漏洩などの不要水の削減	558,312 m3 (22.6% 減)	達成	グリーン購入 100%	・各施設の使用量の定期的な公表 ・職員の巡回による、不要水の削減 ・利用者が少ない場合の入浴時間の調整、短縮 ・水道蛇口周辺に節水シールを貼り、意識を高める ・節水コマの使用や自動水栓の導入 ・節水型トイレの導入 ・漏洩などの不要水の削減
グリーン購入			・グリーン購入の徹底	環境物品等の購入 100%	達成		・グリーン購入の徹底
リサイクル			・リサイクル及び廃棄物の実態調査の実施	左項を実施	達成		・リサイクル及び廃棄物の実態調査の実施
廃棄物			・廃棄物の分別の徹底やコピーの裏紙利用、ペーパーレス化の促進	左項を実施	達成		・廃棄物の分別の徹底やコピーの裏紙利用、ペーパーレス化の促進

電気、重油、灯油、都市ガス・プロパンガス及び水道の使用量は、各施設の省エネ活動や照明のLED化など、様々な取り組みにより、平成22年度比で20.5～45.6%の削減を達成しております。なお、3.5のとおり令和5年度の総利用者数が令和4年度を大きく上回る事となり、このことが光熱水使用量増加（削減率減）の大きな要因となっております(7.2参照)。

当機構は、都市を離れた山間部や海辺で自然体験、集団宿泊活動の機会や場の提供を行っており、利用者数の増減や気象条件等により光熱水使用量が大きく変動しますが、引き続き上記計画の取り組みを徹底して、環境負荷の低減に努めてまいります。

6 環境への配慮

6.1 環境教育事業

当機構では、全国の施設で持続可能な社会の担い手の育成につながる青少年の体験活動事業や指導者研修など、様々な事業を実施しています。本項では、その中から主な取組を紹介します。

【事業名】

テンパーク・エコキャンプ

【施設名】 国立岩手山青少年交流の家（岩手県）

【目的】

岩手県は、風力・地熱など再生可能エネルギーについて学ぶ学習材料に恵まれている。

小学生とその家族が再生可能エネルギーの仕組みを学び、また自然体験をすることにより地球環境について主体的に考え、これからの持続可能な社会の担い手として、自然と共生していく意欲を育む。

【期日】 令和5年7月15日～令和5年7月16日

【対象・参加人数】

小学校3・4年生の児童を含む家族 15家族 44名

【主な内容】

① 再生可能エネルギー発電所見学

3種類の発電所（姫神ウィンドパーク（風力発電所）、明治百年記念公園小水力発電所、松川地熱発電所・地熱館）で、それぞれ関係者の解説を聞きながら見学を行った。

② 科学実験教室&サイエンスショー

『科学のお姉さん』として知られる五十嵐美樹氏を招き、ダンスでのバターづくりなどのサイエンスショーを実施した。

また、エネルギーやSDGsをテーマに、電磁石などを用いた科学実験や羽根のついたモーターを回すことで発電する風力発電機の模型の作成を行った。

③ ファミリータイム～夜の森～

家族ごとに焚き火をし、炎色反応の実験や松ぼっくりを使った花炭づくりを行った。

④ 再生可能エネルギー講話

交流の家がある滝沢市に隣接する八幡平市での、再生可能エネルギーの活用の様子などの講話を聞いた。

⑤ 地熱蒸気染色体験

世界的にも非常に珍しい、地熱蒸気により染料を定着させる染物を参加者一人一人が制作した。

【参加者の声・成果】

事業後のアンケートでは、事業全体に関する満足度について、「満足」「やや満足」の評価が94.4%であった。感想では「このような学びの場は、なかなか個人では教えるに難しい部分があるので、イベントを通して子ども達が学ぶ機会をもらえて良かったと思う。」「火力、水力、地熱、風力と間近で短時間で学べる環境にあったのだと改めて実感しました。」「子供だけではなく大人も一緒に楽しめるイベントでとても楽しく過ごさせて頂きました。」との声が寄せられた。また、今回の参加により再生可能エネルギーや地球環境を考えていこう（更に考えていこう）と思ったか聞いたところ、「思った」「やや思った」の回答が97.2%であった。自由記述においても「自然エネルギーの魅力は素晴らしく、これからも推進して欲しいと思った。」「家族でエコについて考えるきっかけになり、子供にもいい体験になった。」との記載があり、事業の目的を達成することができたと考えられる。



< 松川地熱発電所見学 >



< 風力発電機模型づくり >



< 地熱蒸気染色体験 >

令和5年度に各施設で実施された環境教育に関する主な事業

【施設名】 事業名	事業の概要	期 間	募集人員
		対象者	参加人員
【大雪青少年交流の家】 特色あるプログラム開発 森 と火山のミステリーツアー ～ビンゴで十勝岳のジオを学 ぶ～	[事業目的] 十勝岳周辺の自然と地質の観察や体験活動を通して、十 勝岳周辺の森や地形が特別なものであること学ぶ機会とす る。 [主な内容] ジオマップハイキング、学習活動	9. 9 (土) ～ 9.10 (日)	30
		小学校4～6年生	27
【岩手山青少年交流の家】 テンパーク・エコキャンプ ※詳細は9ページ参照	[事業目的] 岩手山青少年交流の家の所在地である岩手県は、風力・ 地熱など再生可能エネルギーについて学ぶ学習材料に恵まれ ている。 そこで、本事業では小学生とその家族が再生可能エネル ギーの仕組みを学び、また自然体験をすることにより地球環 境について主体的に考え、これからの持続可能な社会の担 い手として、自然と共生していく意欲を育む。 [主な内容] 科学実験教室、発電所見学	7.15 (土) ～ 7.16 (日)	45
		小学校3・4年生を含む親子	44
【磐梯青少年交流の家】 アクティブ・ジオキャンプ	[事業目的] 長期キャンプにおいて、「食育」と「運動習慣のきっか けづくり」に関するプログラムを行うことにより、参加者 が「運動」「食事」「睡眠・休養」のバランスの取れたよ り良い生活習慣を継続することができるようにするすると ともに、磐梯山ジオパークをめぐる、自然の素晴らしさや 大切さを学ぶ。 [主な内容] ・基本的な生活習慣を身に付けるきっかけづくりとなるプ ログラム ・食育教育（野外炊飯・栄養バランスについて） ・食育体験（農業体験） ・サイクリング ・磐梯山ジオパークを活用したフィールドワーク （爆裂火口壁・銅沼散策等） ・登山（磐梯山） ・水辺の活動（カヌー、シャワークライミング等） ・猪苗代湖一周ライド&ウォーク	① 7.23 (日) ～8.5 (土) ②10.15 (日)	各回 20
		小学5年生～中学3年生	28
【赤城青少年交流の家】 地域の実情を踏まえた特色あ るプログラム事業（赤城山学 習）	[事業目的] 生徒の豊かな感性や自然保護への意識、ふるさとを愛す る心を育むため、「赤城山で学ぶ教科体験学習」に焦点を 当てたプログラムの実施を行う。 [主な内容] 総合的な学習の時間：【赤城山環境学習】	7.24 (月)	135
		国立赤城青少年交流の家を利 用する小学校の団体	135
【乗鞍青少年交流の家】 花里小学校moritomirai カー ドゲーム出前講座	[事業目的] 体験活動を通して、森林資源の素晴らしさや大切さに気 付き、森林資源を守っていこうとする態度を育成する。 [主な内容] カードゲーム（moritomirai）	6.28 (水)	40
		小学生	45

【施設名】 事業名	事業の概要	期 間	募集人員
		対象者	参加人員
【中央青少年交流の家】 特色あるプログラム事業 (SDGs 調査団)	[事業目的] SDGs への理解を深め、地球に生きる一人の人間として、自分自身が世界の課題へどのように関わっていくのかを考える機会とする。 [主な内容] SDGs ミッションウォークラリー、野外炊事、オリジナル缶バッジづくり	6.25 (日)	30
		小学4～6年生	34
【淡路青少年交流の家】 SDGs 探検隊	[事業目的] 小中学生を対象に体験を通して淡路島の魅力について実感してもらうことなどにより、淡路島に誇りを持ち、そして未来を創る青少年を育成する。また、高校生や大学生にリーダーとして活動してもらうことにより、異年齢交流の機会とするとともに、高校生や大学生に対しても、地域への愛着を感じてもらう機会とする。 [主な内容] 山・里・海の魅力と課題を体験、探究、異年齢交流	11.3 (金)～11.5 (日)	20
		小学生、中学生、高校生、大学生、その他の学生	22
【江田島青少年交流の家】 海のふしぎな発見隊	[事業目的] 海をテーマにした体験的・問題解決的な学習を実施し、環境に配慮した行動を取ろうとする意欲・態度を養う。 [主な内容] 海辺の生き物観察、船での海洋観察、 海辺の環境保全・保護活動	① 8.3 (木)～8.5 (土) ② 9.30 (土)～10.1 (日) ③ 11.4 (土)～11.5 (日)	各回 24
		小学5・6年生	69
【江田島青少年交流の家】 〔共催事業〕 高専高度化推進事業「プロジェクト江田島 Camp 2024」	[事業目的] プログラミングと地域の特色を学ぶ「郷土学習」(海洋環境教育)を組み合わせた教材をオンラインで利用できる環境構築するとともに、SDGs-No.14 (及びNo.15) について考える。 [主な内容] プログラミング教育、郷土学習(海洋環境教育)、 Sea to Summit	2.3 (土)	20
		小学校高学年	39
【大洲青少年交流の家】 OZU チャレンジプログラム	[事業目的] カヌー体験活動を通して自然体験の素晴らしさを伝えるとともに、体験活動の普及啓発を図る。 [主な内容] 水辺の安全	① 7.16 (日) ② 8.6 (日) ③ 8.20 (日)	各回 30
		①③小学5・6年生、保護者 ②小学5～中学生、保護者	91
【阿蘇青少年交流の家】 令和5年度地域の実情を踏まえた体験活動事業(特色化事業)	[事業目的] 児童一人一人が阿蘇ジオパークの実際に触れ、阿蘇ジオパークのよさや素晴らしさに気づき、自然に対する畏敬の念を持つとともに、郷土を愛する心を育てる。 [主な内容] 既存の野外活動プログラム(仙酔峡ハイキング、鷺見平登山、水基めぐり)をとおして雨水のゆくえを探しながらフィールドワークを行い、川の上流の様子、湧水の仕組み、川の形成について学ぶ。	9.26 (火)～9.27 (水)	67
		小学5年生	72

【施設名】 事業名	事業の概要	期 間	募集人員
		対象者	参加人員
【阿蘇青少年交流の家】 ジュニアジオガイド講座	[事業目的] 阿蘇ジオパークを地域教材にした問題解決学習を通して、科学的思考力や課題解決能力、阿蘇ジオパークに関する幅広い知識と表現力の育成を図る。 [主な内容] フィールドワーク、自然体験、ジオガイド体験	① 9. 2 (土) ～ 9. 3 (日) ② 9. 23 (土) ～ 9. 24 (日) ③ 9. 30 (土) ～ 10. 1 (日)	各回 24
		小学5・6年生	53
【沖縄青少年交流の家】 親子で自然体験 in とかしき	[事業目的] 障がいのある子供たちが、ケラマブルーの海とサンゴ礁の中でのびのびと遊ぶ楽しさを体験する。また家族や仲間と触れ合い、渡嘉敷島の海や山を観察し、自然の雄大さや良さについて考え、見直す機会とする。 [主な内容] クラフト、野外炊事、マリン活動	9. 30 (土) ～ 10. 1 (日)	45
		障がいをもつ幼児・小・中・高校生とその家族	38
【沖縄青少年交流の家】 美ら島サンゴ大作戦	[事業目的] 国立公園に指定されている慶良間諸島の豊かな自然環境の中で、スノーケリング活動をとおして、直接、自然環境に触れ、体験し、「サンゴ」を教材として生物多様性や環境問題について専門家から学び、知識を身に付ける。また地球の環境保全について考え発表する力を養う。 [主な内容] サンゴウォッチング（スノーケリング）、サンゴの生態についての講話&ゲーム、石灰岩で作られた石垣の見学	9. 16 (土) ～ 9. 18 (月)	24
		小学5年生～中学3年生	22
【日高青少年自然の家】 はじめて野あそびクラブ	[事業目的] 季節感あふれる自然体験活動や情感豊かな読書活動を通して、様々な事象に興味・関心を広げたり、積極的に関わろうとする意欲を高めたりすることで、豊かな感性を育むことを目的に実施する。 [主な内容] ①ネイチャーゲーム、クラフト、野外炊飯 ②星空観察、クラフト、野外炊飯	① 6. 10 (土) ～ 6. 11 (日) ② 9. 23 (土) ～ 9. 24 (日)	各回 60
		ひだか野あそび会員に登録した小学2年生以下の子どもを含む家族	83
【花山青少年自然の家】 子ども地球探検隊	[事業目的] 自然の家と栗駒山麓、三陸、ゆざわの3つのジオパークの見学や体験活動を通して自然に対する理解を深め、地域に根差した環境教育の推進を図る。 [主な内容] ①沢遊び、ジオパーク見学 ②栗駒山登山、ジオパーク見学	① 8. 8 (火) ～ 8. 13 (日) ② 10. 7 (土) ～ 10. 9 (月)	各回 20
		小学4年生～中学2年生	39
【信州高遠青少年自然の家】 たかとお森の楽校	[事業目的] 当施設は、森に囲まれた施設であり、様々な動物や野鳥などを観察することができる。森は私たち人間のみならず、多くの生き物の暮らしを支えている。そこで、森での体験をするとともに森の役割や大切さについて学ぶ機会とする。森林ESDを通して次代を担う子どもたちを対象とした事業を実施する。 [主な内容] 香料スプレー作り、生物観察	9. 2 (土) ～ 9. 3 (日)	30
		小学4～6年生	28

【施設名】 事業名	事業の概要	期 間	募集人員	
		対象者	参加人員	
【妙高青少年自然の家】 みどりの学習	[事業目的] 森林に親しみ、森林の大切さやはたらきについて理解を深め、自然を大切にしようとする心情を深める。 また、学習の興味や好奇心を引き出し、ねらいに即した指導ができる指導者を養成する。 [主な内容] 森探検、源流探検、スノーシューハイク	① 6. 9 (金) ② 8. 31 (木) ③ 11. 20 (月) ④ 1. 31 (水)	① 17 ② 35 ③ 35 ④ 35	
		妙高市立新井北小学校 4 年生	149	
		① 6. 15 (木) ② 7. 7 (金) ③ 9. 7 (木) ④ 10. 3 (火) ⑤ 11. 13 (月) ⑥ 2. 28 (水)	① 18 ② 20 ③ 18 ④ 18 ⑤ 18 ⑥ 18	
		妙高市立妙高高原小学校 4 年生	162	
		① 7. 4 (火) ② 9. 12 (火) ③ 10. 19 (木) ④ 10. 20 (金) ⑤ 2. 14 (水)	① 61 ② 49 ③ 52 ④ 49 ⑤ 50	
		妙高市立新井中央小学校 4 年生	302	
		① 11. 10 (金) ② 2. 8 (木) ② 2. 22 (木)	① 67 ② 67 ③ 65	
		妙高市立新井小学校 4 年生	209	
		7. 22 (土)	17	
		指導者	23	
		11. 7 (火)	10	
		妙高市教育研究会 (生活・総合部 職員研修)	9	
【立山青少年自然の家】 清流とやま水守り隊	[事業目的] 豊かな水資源に触れ、海や川の自然を肌で感じることで、自然の大切さや持続可能性について考える。 [主な内容] 釣り、川遊び	9. 2 (土) ～ 9. 3 (日)	30	
		小学 4 ～ 6 年生	12	
【若狭湾青少年自然の家】 市・町と連携した幼児期の自然体験活動普及事業 「わかさわんしぜんはともだち」	[事業目的] 若狭湾の自然の中での体験活動を通して、幼児に自然とふれあう楽しさや面白さを知らせ、豊かな感受性を育む。 [主な内容] 《海編》水泳 《山編》ハイキング	海編	① 7. 24 (月) ② 7. 26 (水) ③ 7. 27 (木) ④ 8. 7 (月) ⑤ 8. 21 (月) ⑥ 8. 22 (火) ⑦ 8. 23 (水) ⑧ 8. 24 (木) ⑨ 8. 25 (金) ⑩ 8. 31 (木)	① ～ ⑩ 886
			幼稚園、保育園等に通う園児 (5 歳児) ① 小浜市 ② 小浜市 ③ 小浜市 ④ 若狭町 ⑤ 敦賀市 ⑥ 敦賀市 ⑦ 敦賀市 ⑧ 敦賀市 ⑨ 若狭町 ⑩ おおい町	886
		山編	① 10. 18 (水) ② 10. 19 (木) ③ 10. 20 (金) ④ 10. 23 (月) ⑤ 10. 25 (水) ⑥ 10. 27 (金) ⑦ 11. 6 (月)	① ～ ⑦ 396
			幼稚園、保育園等に通う園児 (5 歳児) ① 小浜市 ② 小浜市 ③ 小浜市 ④ 若狭町 ⑤ 小浜市 ⑥ 若狭町 ⑦ 小浜市 (聖ルカ幼稚園)	396

【施設名】 事業名	事業の概要	期 間	募集人員
		対象者	参加人員
【若狭湾青少年自然の家】 若狭湾文化体験シリーズ ①「へしこ作り編」 ②「なれずし作り編」	[事業目的] ESDの視点を意識した海の体験プログラムや、若狭地域の伝統的な食文化に触れることを通して、海の豊かさや森の豊かさを知り、大切にしようとする気持ちを育てる。 [主な内容] ①へしこ作り、地元の方の講演、野外活動 ②なれずし作り、地元の方の講演、漁網を使った書道体験	① 4. 22(土) ～ 4. 23 (日) ② 11. 4(土) ～ 11. 5 (日)	各回 30
		小学生を含む親子	44
【若狭湾青少年自然の家】 わかさわん キッズ冒険隊	[事業目的] 若狭湾の自然の中での体験活動を通して、地域の自然に親しみ、地域の自然を大切にし、地域の魅力を発見できる子供たちを育てる。 [主な内容] スノーケリング、磯観察、海のお話	7. 22 (土) ～ 7. 23 (日)	24
		小学 1 ～ 3 年生	24
【曽爾青少年自然の家】 そにとキャンブ	[事業目的] 曽爾の豊かな自然環境を使ったダイナミックで冒険的な活動等を通して、小さな成功体験や、やり遂げた時の達成感を積み重ねる中で、社会性や自己肯定感を養う。また、保護者に対する効果的な支援方法についての研修を行う。さらに、この事業を通して得た成果の普及・啓発を行う。 [主な内容] ・新しい仲間と出会い、親交をもつ。 ・みんなで協力する気持ちを培う。 ・やり遂げることの喜びを感じる。 ・自然（光、風、水、草木）を体感する。	① 5. 20 (土) ～ 5. 21 (日) ② 7. 15 (土) ～ 7. 17 (月) ③ 12. 9 (土) ～ 12. 10 (日)	① 24 ② 12 ③ 12
		発達障害のある小学 3 ～ 6 年生とその保護者	63
【曽爾青少年自然の家】 そに森の子キャンブ	[事業目的] 林業体験や野外炊事などの活動を通して木材の活用や森のしくみについて学ぶことにより、環境を守ろうとする態度を育てる。 [主な内容] 林業体験、薪づくり、野外炊事	12. 16 (土) ～ 12. 17 (日)	20
		小学 5 ・ 6 年生	15
【吉備青少年自然の家】 桃太郎チャレンジ 2023	[事業目的] 小学校中学年という人間関係の大きな発達段階にある子供たちが、自然の中で共に宿泊体験や自然体験活動を通して、コミュニケーション力を高め、協力してよりよい集団生活を築こうとする態度や、自ら困難なことにもチャレンジし、自分自身を認めようとする心情を育む [主な内容] 移動キャンブ、ロングウォーク、野外炊事	8. 17 (木) ～ 8. 23 (水)	24
		小学 3 ・ 4 年生	24
【吉備青少年自然の家】 森のたんけんたい 2023	[事業目的] 吉備の秋を感じながら自然に親しむ活動を通して、自然体験や自然の大切さを理解するとともに、家族のきずなや家族間の交流を深める。 [主な内容] トレジャーウォーク、キャンブファイヤー、野外炊事	9. 30 (土) ～ 10. 1 (日)	30
		4 歳～小学校低学年とその家族	35

【施設名】 事業名	事業の概要	期 間	募集人員
		対象者	参加人員
【山口徳地青少年自然の家】 幼児キャンプ	[事業目的] 自然体験活動を通して、新たな発見を楽しんだり、自然の不思議さに気づいたり、自然について考えたりする感性を養う。また、様々な動植物と直接触れ合う活動等を通して、自然・生命を大切にしたいと思う、「温かい心の醸成」を図る。 [主な内容] 自然探検、自然観察、ネイチャーゲーム	6. 9 (金) ～ 6.10 (土)	35
		幼児(西佐波保育園)	39
【室戸青少年自然の家】 サイエンスキャンプ	[事業目的] 地域の実情を踏まえた体験活動に取り組むことで、施設プログラムの個性化・高度化・拠点化をはかるするとともに、室戸ジオパークをめぐる、自然の素晴らしさや大切さを学ぶ。 [主な内容] 室戸ジオパークセンターとの連携、室戸岬探勝	7.22 (土) ～ 7.23 (日)	20
		小学4～6年生	20
【室戸青少年自然の家】 体験！発見！ジオパーク	[事業目的] 室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ。 [主な内容] シーカヤック、磯観察、スノーケル	2.18 (土) ～ 2.19 (日)	25
		小学4～6年生	17
【室戸青少年自然の家】 ジオパークの生き物ウォッチング	[事業目的] 生き物を観察、調査し、動物や自然に親しみを持つ機会を提供する。 [主な内容] 動物カメラ、こうもりの生息地見学	10.28 (土) ～10.29 (日)	40
		小学生、保護者	15
【夜須高原青少年自然の家】 夜須高原の里地里山「地域の文化」体験を通じたESD事業	[事業目的] 福岡県内に住む小学校4年生の児童を対象に、夜須高原の里地里山が直面する課題を「里地里山文化体験ESD」プログラムを体験的に学ぶことを通して、児童自身が生活する地域の課題と改善策を考える機会とする。また、学校での教科等の学習の知識と体験を結びつけ、実感を伴った深い学びにつなげることを図る。 [主な内容] 里地里山ウォークラリー、竹を活用したプログラム 等	7.31 (月) ～ 8. 1 (火)	40
		大牟田市立中友小学校4年生	25
【夜須高原青少年自然の家】 夜須高原 竹を楽しむファミリーキャンプ	[事業目的] 幼児及び小学生とその家族を対象に、夜須高原の里地里山に及ぼす竹害の現状を理解し、竹を活用した自然体験や生活体験の中にSDGsの視点を取り入れ、家族で持続可能な社会づくりについて楽しく学ぶ。 [主な内容] ①竹細工作り、竹の子掘り、自然散策、振返り(竹害) ②③竹工作、SDGs ウォークラリー、流しそうめん ④SDGs ウォークラリー、竹炭焼き、竹灯笼作り	① 5.13 (土) ～ 5.14 (日) ② 7.15 (土) ～ 7.16 (日) ③ 7.16 (日) ～ 7.17 (月) ④10.21 (土) ～10.22 (日)	各回 60
		幼児、小学生及びその家族	140
【大隅青少年自然の家】 TRY CAMP in おおすみくん家	[事業目的] 自然体験・生活体験等を通して、子どもの豊かな情操を養う。また、漂流物を通して、環境問題に自ら取り組むきっかけとする。 [主な内容] 野外炊飯、テント設営、釣り体験	5.27 (土) ～ 5.28 (日)	30
		小学4年生～中学生	30

6.2 設備・備品等の整備

当機構では、従来から、環境負荷を大幅に軽減することができる取組として、省エネルギーが見込める設備、備品等の導入を積極的に行うとともに、既設設備が良好な性能を維持できるよう整備することで、温室効果ガス等の排出量の削減へ配慮してまいりました。

令和5年度は、蒸気ボイラー更新による燃料使用量の削減により温室効果ガス等の排出量の削減に努めた（大雪、岩手山、三瓶の各施設）ほか、各施設において、照明器具のLED化により消費電力の削減にも努めた（18施設）。

また、利用者数が戻りきらない現状も踏まえ、利用者がいない階の照明の消灯、照明が不要な時間帯に照明を自動点灯させないよう照明類のタイマーの見直し等、設備の運用面で利用状況に応じた省エネルギーを実施しました。

さらに、令和5年度は、事務用パソコン更新の調達にあたり、導入する機器の要件として、「グリーン購入法基準適合商品」であり、かつ、「国際エネルギースタープログラム制度」の適合基準を満たす製品であることを指定するとともに、「可能な限り設置する機器の総消費電力量の削減に配慮」することを明示しました。

- ・デスクトップパソコン(723台)をノートパソコン(745台)に更新したことで総消費電力量の削減及び会議、打ち合わせ等におけるペーパーレス化の推進を図った。

○燃料油（重油）の削減

- ・大雪：温水ボイラー(2基)を温水ボイラー(2基)に更新
- ・岩手山：炉筒煙管ボイラー(1基)を小型貫流ボイラー(2基)に更新
- ・三瓶：炉筒煙管ボイラー(2基)を小型貫流ボイラー(2基)に更新

いずれも負荷（蒸気・温水等の使用量）に応じ出力制御が可能であることから、次年度以降の燃料削減に期待が出来ます。

6.3 外部委託業者との連携による環境配慮の促進

当機構が有する全国 28 の教育施設は宿泊滞在型教育施設として毎年多くの青少年などに利用されております。毎日の研修生活において安全、安心は欠かせない管理の一つです。各施設の運営においては、食堂業務、設備運転業務、清掃業務、警備業務等様々な業務が外部業者に委託して行われており、これらの業者と連携して安全、安心な研修生活を提供するとともに、環境に配慮した取り組みを進めています。

特に、当機構 24 施設において食堂業務を受託しているコンパスグループ・ジャパン株式会社は、環境マネジメントシステムに関する国際的規格である ISO14001 の認証を取得し、各事業所において環境管理基準に基づいた環境保全活動に取り組む等環境負荷の軽減を会社全体として推進しています。当機構施設の食堂業務においても、食品ロスの削減、生ごみ・廃油の排出量の削減に取り組むとともに、利用者に対しても食べ残し（生ごみ）削減等環境配慮の呼びかけを行っています。

また、毎日の食事においては、米、野菜、肉、魚など多種多様な食材を使用しますが、これらの食材の調達に当たっては、「地産地消」に心がけ食材の運搬に伴う自動車からの二酸化炭素の排出量の抑制を行っています。

【環境配慮促進に向けた事例紹介】

●食品廃棄削減の取組み例

コンパスグループ・ジャパン株式会社

コンパスグループ・ジャパン株式会社は、「食」を通じて「安全・安心・安定」を提供し続けるとともに、つねに健康的で持続可能なライフスタイルや環境への影響に配慮した企業活動を行っています。食品廃棄削減については、「使いきり」「食べきり」「水きり」（3きり運動）を徹底するとともに、2030年までに50%削減するというコンパスグループのグローバル目標に基づいて、さまざまな活動を推進しています。

特に「水きり」は、水分を除去することで、生ゴミの重量が軽くなり、廃棄後の焼却エネルギーやCO2排出削減にも繋がります。



水切りの様子

水切り・計量・記録の手順



- ・水分を除去することで軽くなり、廃棄物の焼却エネルギーやCO2排出削減にも繋がります。
- ・削減の成歩を正しく把握するためには、計量と記録を正確に行うことが重要です。

- 1** **生ゴミを「水切り用ザル」に入れる**

POINT
 臭気抑制のために、水切り用ザルの大きさを確認する。
 ※水切りザルの容量は、最大サイズで50%以上を目安に



※水切りザルをゆすぐ。
 - 2** **生ゴミの水分を切る**

POINT
 1度には大量の生ゴミを詰めると十分な水分が
 出ないので、ザルの60%の量を目安にする。



※生ゴミを
 60%の量を詰め、
 水分を絞る。
 - 3** **生ゴミ用のゴミ箱に入れる**

POINT
 生ゴミをゴミ箱に入れる際は、ゴミの水分の量を確保する。
 (湿気抑制のため)。
 ゴミの量が増えたと気づいたら、ペーパーを数枚重ねてよく湿し、清
 潔な状態に保定する。



※ゴミ箱に水を
 注ぎ、生ゴミを入
 れる。
 - 4** **生ゴミ袋を持って拜（ハスミナー）
 に乗り、汁漏す**

POINT
 汁漏す時はゴミをスータータイプで2層まで利用し、
 所定容量までの容量には、十分注意する。



※「拜」(ハスミナー)で
 汁漏す。

※ゴミを2層まで使って
 絞り、汁漏す。

※絞り機に生ゴミを
 入れる際は、2層
 まで利用する。
 - 5** **Food Itに廃棄量を入力する**

POINT
 1. 毎食毎日に計量し、必ず正しく
 毎日Food Itが排出量を入力する
 ※Food It 入力時はゴミコンポストで「Food It」で検索



 COMPASS JAPAN

6.4 環境関連法規制への対応

当機構の活動に当たっては、常に遵法を心がけ関係組織と連携の下に適正な活動を実施しています。当機構に適用される主な環境関連法令等は次のとおりですが、令和5年度（2023年度）は全国28の教育施設において、指導、勧告、命令などはありませんでした。

（1）当機構が関連する主な環境関連法規制

- ◆環境基本法
- ◆循環型社会形成推進基本法
- ◆水質汚濁防止法
- ◆大気汚染防止法
- ◆廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ◆湖沼法
- ◆浄化槽法

- ◆水道法
- ◆建築物における衛生的環境の確保に関する法律（ビル管理法）
- ◆消防法
- ◆エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）
- ◆労働安全衛生法

（2）当機構が行っている主な環境測定

○大気汚染防止法に基づき、蒸気ボイラーの排ガス測定を行いました。

ばいじん濃度、硫黄酸化物、窒素酸化物等の基準値を全てクリアしています。

○浄化槽法に基づき、放流水の水質検査を行いました。

PH（水素イオン指数）、BOD（生物化学的酸素要求量）、透視度等の基準値を全てクリアしています。

○水質汚濁防止法に基づき、排出水の水質検査を行いました。

浮遊物質、大腸菌群数、りん含有量等の基準値を全てクリアしています。

○水道法に基づき、上水の水質検査を行いました。

一般細菌、塩化物イオン、有機物（TOC）等の基準値を全てクリアしています。

7 環境負荷の状況

7.1 マテリアルバランス

以下は令和5年度（2023年度）の機構におけるマテリアルバランスの状況です。

エネルギー・資源投入量					
	電気	19,472,226	kWh		ガソリン 54,608 L
	重油	1,408,600	L		燃料用ガス 1,381,557 m³
	灯油	325,453	L		水道 558,312 m³
	軽油	62,054	L		



国立青少年教育振興機構（全28施設・本部）

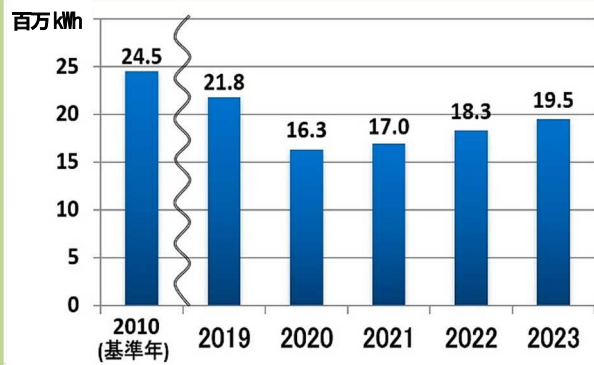


排出量			
	二酸化炭素	15,886	t
	廃棄物（本部のみ）	109,815	kg
	下水	604,227	m³

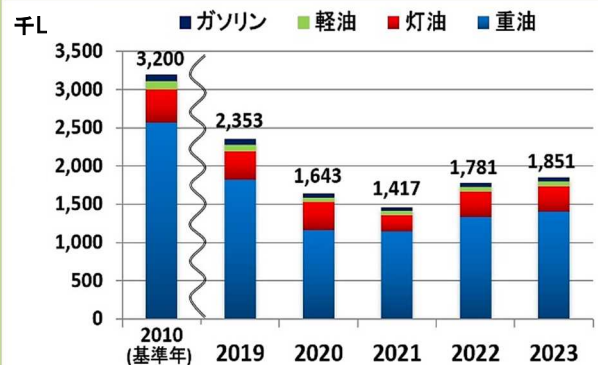
7.2 個別環境負荷の状況

<エネルギー・資源投入量>

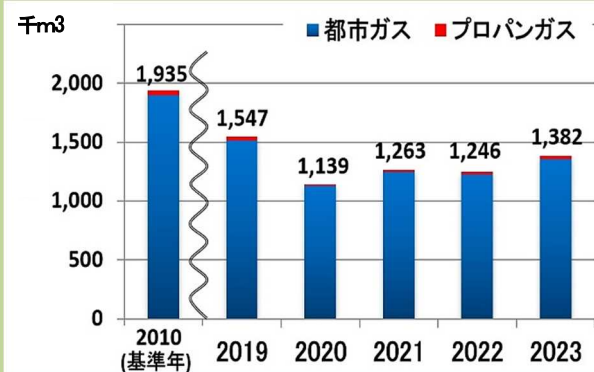
1. 電気の使用量



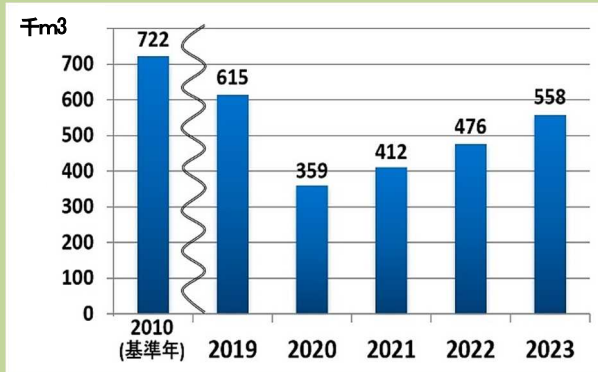
2. 燃料油の使用量



3. 燃料用ガスの使用量



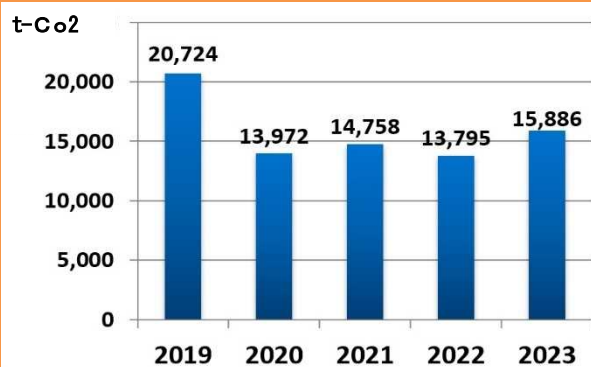
4. 水道の使用量



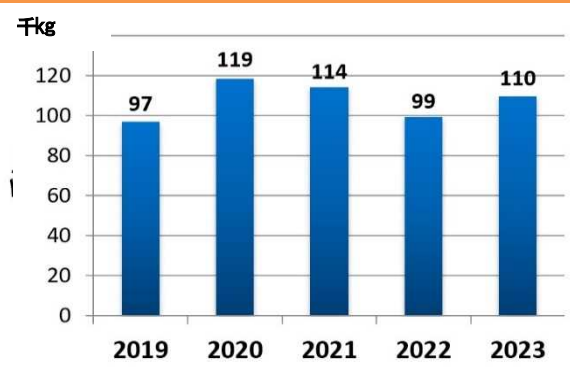
注) 公共水道以外の井水等も使用しています。

<排出量>

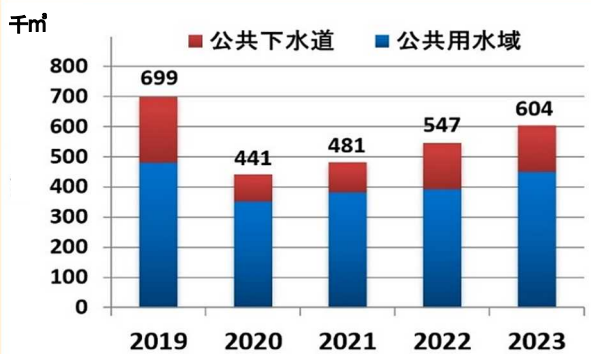
1. 二酸化炭素の排出量 ※ 注1)



2. 廃棄物の排出量 ※ 注2)



3. 下水の排出量 ※ 注3)



注1) 二酸化炭素の換算係数は地球温暖化対策の推進に関する法律施行令を参考。

注2) 排出量は地方施設を除く。

注3) 排水量には温泉水が含まれるため前述の水道使用量とは一致しません。

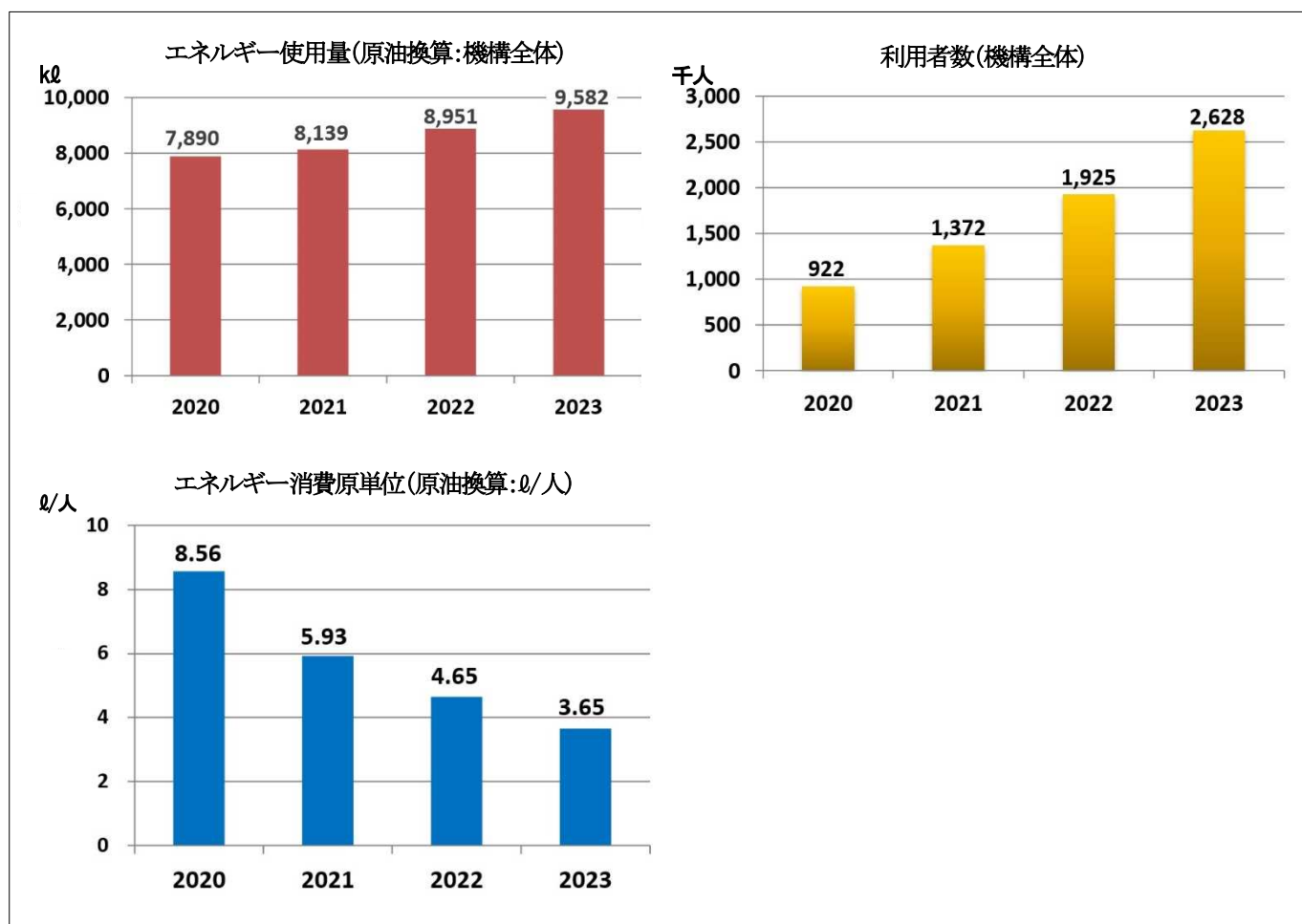
7.3 個別環境負荷の分析

令和5年度（2023年度）の電気、重油、灯油、軽油、ガソリン、都市ガス、プロパンガス、水道の各使用量は基準年度である平成22年度（2010年度）の使用量を下回り、目標を達成しています。

一方、総利用者数増加（36.5%増）により、令和4年度（2022年度）に比べて、電気：6.3%増、重油：5.6%増、灯油：1.4%減、軽油：1.4%減、ガソリン：1.9%増、都市ガス：10.7%増、プロパンガス26.8%増、水道：17.2%増となりました。

令和4年度に比べて、灯油・軽油を除き電気、重油等全てのエネルギーが増加しておりますが、令和2年度（2020年度）と比較すると、利用者数増加2.85倍に対して、エネルギー使用量（原油換算：kℓ）増加は1.21倍にとどまっており、利用者一人当たりのエネルギー消費量は大幅に縮減しております。

※令和5年度（2023年度）総利用者数2,627,890人（令和4年度（2022年度）1,924,698人、対前年比703,192人（36.5%）増）



8 環境報告書に対する所見

環境配慮促進法第9条により、下記のとおり「独立行政法人国立青少年教育振興機構 環境報告書 2024」の評価を行いました。

(1) 実施日 令和7年1月10日

(2) 実施者 独立行政法人国立青少年教育振興機構 監事 柿沼 美紀
監事 植草 茂樹

(3) 評価基準等

環境報告書の評価は以下を基準に実施しました。

- (イ) 環境配慮促進法及び環境報告ガイドライン（環境省）への適合
- (ロ) 環境配慮促進法第8条に基づく環境報告書の記載事項等の網羅

(4) 評価の結果

各教育施設においては青少年の自然体験活動事業を通して、自然に対する理解を深めることで地球環境について主体的に考え、これからの持続可能な社会の担い手を育む環境教育事業に取り組んでいること。

また、事業活動における環境負荷の低減においては、利用の促進に向けた広報活動等の工夫・充実等による総利用者数増加（回復）に伴いエネルギー使用量（原油換算）が増加しているが、利用者一人当たりのエネルギー消費原単位（原油換算：ℓ/人）について省エネ法に基づく「工場等におけるエネルギーの使用の合理化に関する事業者の判断基準」に定められた年平均1%以上低減させる目標を達成したことについて評価します。

「環境報告書 2024」は上記（3）の評価基準等を十分踏まえて作成されており、報告されている情報の正当性、整合性については、特に問題を認めません。

脱炭素社会・カーボンニュートラル実現に向けて、構成員に対し環境理念や環境理念に基づく活動方針に係る啓発を一層推進されることを期待します。

令和7年1月10日

監事 柿沼 美紀
植草 茂樹

(参考) 環境配慮促進法との対照表

記載要求事項	記載状況	国立青少年教育振興機構 環境報告書 2024	
		該当項目	該当頁
環境報告書の記載事項等			
一 事業活動に係る環境配慮の方針等	○	環境理念と活動方針	3
二 主要な事業内容、対象とする事業年度等	○	機構の概要	4
三 事業活動に係る環境配慮の計画	○	環境目標・実績	8
四 事業活動に係る環境配慮の取り組みの体制等	○	環境配慮への体制	7
五 事業活動に係る環境配慮の取り組みの状況等	○	環境への配慮	9
		環境関連法規制への対応	18
六 その他	○	環境負荷の状況	19
環境配慮促進法			
第4条（事業者の責務）	○	外部委託業者との連携による環境配慮の促進	17
第8条（環境報告書の記載事項等）	○	環境報告書に対する所見	22
第9条（環境報告書の公表等）	○		

「環境報告書 2024」に関するご意見・ご感想をお待ちしております。今後の環境保全への取り組み等の参考にさせていただきます。

独立行政法人国立青少年教育振興機構 財務部施設管理課
 電話番号：03-6407-7672 E-mail：kankyo@niye.go.jp
 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

発行年月日
 令和7年1月10日

独立行政法人国立青少年教育振興機構
シンボルマーク

